

## 特別報告

### 「ヒバクシャ国際署名」から条約批准の議会決議へ

原水爆禁止富良野地区実行委員会  
事務局長 坂井 司

#### はじめに

ヒバクシャ国際署名ジャンプアップ集会参加の皆さんこんにちは。ご紹介いただきました原水爆禁止富良野地区実行委員会の坂井司です。富良野実行委員会



は、新婦人、高教組、民商、共産党の組織と個人で構成され、富良野沿線自治体1市3町1村を活動エリアとして平和活動を展開しております。

このような場での発言ははじめての出来事で、大変緊張しております。今日は文章を用意してきましたので、読み上げる形で発言させていただきます。よろしく申し上げます。

#### 谷口稜暉さんの訴え

2015年8月9日、長崎への原子爆弾投下から70年をむかえた、長崎市平和公園で行われた長崎市主催の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で、被爆者代表として谷口稜暉さんが安倍首相の前で発言した行動などに、私は衝撃を受けました。

谷口さんは、「戦後日本は、再び戦争はしない、武器は持たないと世界に公約した『憲法』が制定されました。しかし今、集団的自衛権の行使容認を押しつけ、憲法改正を推し進め、戦時中の時代に逆戻りしようとしています。今、政府が進めようとしている戦争につながる安保法案は、被爆者をはじめ平和を願う多くの人々が積み上げてきた核兵器廃絶の運動、思いを根底からくつがえそうとするもので、許すことはできません。核兵器は残虐で、人道に反する兵器です。廃絶すべきだということが世界の圧倒的な声になっています。私はこの70年の間に倒れた多くの仲間の遺志を引き継ぎ、戦争のない、核兵器のない世界の実現のため、生きている限り、戦争と原爆被害の生き証人の一人として、その実現を世界中に語り続けることを、平和を願うすべての皆さんの前で心から誓います」と述べられました。

私はこの発言と行動に大変衝撃を受け、私には何ができるのかを考え、地元富良野に帰ってから「核兵器全面禁止アピール署名」をさらに多くの人に広げようと取り組みました。

#### ヒバクシャ国際署名に取り組む

2016年3月23日、日本被団協、被爆者がはじめてよびかけた「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」発表後、ただちに富良野では「核兵器を禁止し廃絶する

条約締結を求める」一点で、思想・信条の垣根を越えた幅広い協力と共同で取り組むことを提起し推進してきました。

街頭での毎月の69行動に加えて、5自治体首長、議長、教育長はじめ富良野平和フォーラム連合、創価学会、企業団体に署名の行動を呼びかけました。企業からは2,000筆の署名が寄せられました。

さらに、「自治体の広報で署名を呼びかける」など全国の先進的な取り組みから学んで、2017年、8月の1か月間、富良野市役所ロビーに署名コーナーを設置し「広報ふらの」での住民通知を実現してきました。また、各町内会をローラー作戦で一軒一軒訪問して、対話を重点に署名をお願いしてまわりました。

### **住民との対話の中から**

署名を訴える中で、戦争を体験した人たちやとりわけ女性たちからは、「戦争は二度と繰り返してはならない。あの悲惨な思いは子や孫たちに体験させたくない」と重い口を開き、「当時私は20歳、何でも配給制で下着の果ても配給で苦勞し辛かった。こんな戦争経験はもう二度とくり返してはならない」と91歳の女性は、堰を切ったように語りかけてきます。

一方で、「抑止力として核兵器も必要、対話なんてなまぬるい」とチラシの受け取りを拒否されることもあります。こんな時には心もひるんでしまうのですが、「力には力では戦争になるのでは、みんな核兵器を持ったらどうなるの」との意見に「ない方がいい」と相手の考えを引き出すこともありました。しかし、「なぜ日本政府は核兵器禁止条約に抵抗するのか」と多くの方々から政府に対する批判の声が聞かれます。署名をしていて非常に困ってしまう迷惑な声です。

### **「自治体意見書」の運動へ**

こうした困ってしまう声を何とか変えていきたいとの思いから、「核兵器禁止条約の日本政府の署名と批准を求める自治体意見書」に取り組んできました。

これまで1度提出して駄目だったらあきらめていたことを反省して、昨年9月議会に向けて意見書を提出、同時に紹介議員がいなかったために18人いる市議会議員宅を世界大会代表者とまわり理解と賛同を求めてきました。ほとんどの議員さんからは、意見書の内容は理解できると返答がありながらも組織の中に入ると難しく、紹介議員がいなかったことや「国際問題なので最低全会派一致が必要」とのことで否決されました。

一方、占冠村の相川議長さんのところをお願いに伺いましたら、その場で「議会で対応します」と即答して下さり、12月議会で全会一致で採択されました。相川議長さんが議会運営委員会に提案したとき、議員提案者にすすんで、私が必要と名乗りを上げる山本議員さんがいました。山本議員は30年前に大阪から占冠村に移住された方で、お父さんが広島出身で親戚の方も被爆され、当時お墓ごと大阪に移転された経験のある方で、意見書の請願に対して「私たち議員が

率先して提案しなければならない案件」といって逆に感謝されました。

### **三度富良野市議会へ**

12月の富良野市議会では占冠村議会での採択も力に紹介議員3人になっていただきました。いろいろご尽力して下さいましたが、「核抑止力は必要との意見もある」「核保有国と非核保有国との対話の橋渡し役が必要」との公明党の意見があり、またまた否決されました。

しかし、富良野市はこれまで1986年に「非核平和都市宣言」を、2010年には「世界平和・非核平和都市宣言」を市民の努力で制定し、内外に「非核と世界の恒久平和」をアピールしてきました。道内他市町村での採択意見書を参考にし、今年の3月議会に向けて、紹介議員さんの努力でほぼ原案通りの意見書が再度提案され、議会審議の結果全会派一致で可決されました。

この意見書採択の力は、圧倒的多くの核兵器廃絶の声とヒバクシャ国際署名の訴え一点で、思想・信条の垣根を越えた幅広い協力と共同とそれを支える運動体の信頼関係の成果と考えています。

### **核兵器廃絶に向けて草の根の運動を**

富良野沿線自治体には、陸上自衛隊駐屯地をかかえる上富良野町、中富良野町があり、南富良野町もまだ意見書は採択されていません。

引き続き6月議会に向けて、選挙のなかった中富良野町、上富良野町議会、西村議長には、まだ雪が残っている中、4月4日に提出し懇談してきました。選挙後の新しい体制の南富良野町議会には、5月9日、川村議長はじめ8人いる議員宅をまわって理解と賛同を訴えてきました。陸上自衛隊駐屯地がある上富良野町の町長、議長、教育長さんは、「基地の街だが核兵器廃絶は別のもの」とヒバクシャ国際署名にサインをいただいています。

様々困難はありますが、被爆者の願い、多くの核兵器廃絶の願いを、世界の人々と連帯して、これからも草の根の運動をすすめていきたいと思っています。

以上で特別報告を終わります。ご清聴有り難うございました。

(2019/05/25 小見出しは事務局でつけました。)